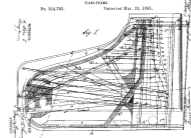


STYLING

MONO

創業以来の歴史の中で
 スタインウェイ社が取得したピアノ製造の
 特許件数は実に125以上にものぼる。
 そのことはすなわち、現代のピアノ製造の
 規範を同社が作り上げたということ。
 1857年に最初の特許を取得してから、
 現代ピアノの歴史が始まったのである。



全ピアノ製造工程の8割を担うマイスター
 たちの作業は緻密で厳格。
 継ぎ目のない板を曲げて成形したリムは
 同社によって考案された革新的な技術であり
 厚みに変化を持たせた響板や、すべて手作業で
 削がれる駒(ブリッジ)などなど、
 あらゆる面で職人の息吹を感じる作りである。



STEINWAY & SONS

スタインウェイ社の創業者である
 ヘンリー・E・スタインウェイだが、
 その名前はドイツからアメリカへと移民した
 1851年に改名したもので、
 ハイリッヒ・エンゲルハート・スタインヴェグ
 というのが誕生時の名前である。
 NYでの生活に溶け込むため、改名までした彼は
 その後、1853年に「スタインウェイ&サンズ」を設立した。
 そのエンゲルハート青年は若く20歳で初の
 弦鳴楽器を製作し、28歳になった1825年
 には楽器修理の工房を開いている。
 1836年には自宅キッチンで
 自作のピアノを作り上げた。
 この通称、キッチンピアノと呼ばれる、
 「第1号」のスタインウェイピアノには、
 響板の駒に継ぎ目のない木材を用いるなど、
 当時としては先駆的な技術が取り入れられていた。
 彼は、早熟の職人だったのである。
 その創業者の情熱とクラフトマンシップは、
 いまなおピアノ製作の原点として
 脈々と受け継がれている。
 より良いビジネス環境を求めてアメリカに
 移住したスタインウェイ一家は、
 新天地で近代ピアノ製造における基礎を築き
 またたく間に名声を獲得した。
 可能な限り最高のピアノを作り上げる
 という情熱は、ゆるぎない品質を追求し、
 スタインウェイの響きを愛する人々に
 「イミタブルトーン(比類なき響き)」
 と称される名品を生み出していったのである。

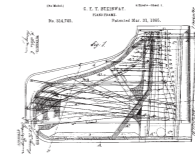


鑄鉄製のフレームにブランドネームが。
 この堅牢なフレームは約20トンもの張力が
 弦によってかかるピアノ全体の堅牢性を
 安定させる、非常に重要なパーツ。
 ピアノの響き自体にかかわってくるものだけに
 スタインウェイ社では独自の鑄造工場を
 保有しているほど。

STYLING

MONO

スタインウェイ社によると、現在、コンサートピアニストの10人に9人が同社のピアノをステージで演奏。あらゆる音楽ジャンルの1600人を超える「スタインウェイアーティスト」たちが、自らの意思によってスタインウェイピアノを選択しているのだ。



Imagine Lyrics
A portion of the lyrics that changed the world grace the inside of the piano. In clear view when the lid is open.

Imagine Music
Adorning the cast iron plate, in the same area of the piano where this melody can come to life, are the opening bars to "Imagine."

Imagine Series Medallion
On each piano is a medallion with the series number and Lennon's "Shop mark" that he designed to mean "Like a Cloud, Beautiful Sound."

John Lennon Signature
Gracing the treble side of the fallboard, John Lennon's signature can inspire you to imagine the possibilities—both in music and in life.

ソロ活動に入ってからジョーン・レノンには、ビートルズ時代の内省的な歌詞、しばしば複雑なスタイルに傾倒した曲調よりも、シンプルなロック・スタイルへと向かっていった。もちろん、独特の繊細で美しいメロディーを捨てたわけではなく、それらはさらに熟成されて数々の名曲を生み出していく。特徴的なのは演奏する楽器にピアノが増えたことで、もちろんビートルズ時代にもピアノ演奏(オプ・ラ・デイ・オブ・ラ・ダのイントロなど)がなかったわけではないが、ポール・マッカートニーの情感たっぷりのピアノとはまた違った、シンプルで美しいピアノ演奏がソロ活動のジョーン・レノンのイメージを作っていた。その代表的な曲が1971年発表の「イマジン」である。ご存知のように「イマジン」は全米、全英、そして日本のヒットチャートでも1位となった大ヒットアルバムであり、タイトル曲である。ヘッドホンを装着して、白いスタインウェイ・ピアノを弾くジョンの姿は、圧倒的なドライブ感と熱気によって支えられていた当時のロック・ミュージック・シーンに、静謐さとクールさで大きなインパクトを与えた。

「イマジン」のアナログレコードに付録されたポスターもこの写真だった。



ああ、あの名曲「イマジン」も スタインウェイの響きから...

にジョンがオノ・ヨーコ夫人の誕生日に贈ったスタインウェイの白いグランドピアノである。この「イマジン・シリーズ」は音楽史におけるジョン・レノンの伝説に捧げられたピアノで、その音楽への情熱やクリエイティブ

イビティ、そしていくつかのメッセージがピアノ本体に刻まれている。素晴らしいのは「イマジン」の楽譜や歌詞の一説。たとえば鉄製のフレームには「イマジン」の4小節の譜面が描かれている。鍵盤蓋の高音側にはジョンのサイン、天屋根を開くと側板の内側に「YOU MAY SAY I'M A DREAMER」の文字が、もちろんこれが

「イマジン」の歌詞の一部であることは、この曲をご存知の方であれば判るはず。さらに、この限定モデルのピアノが世界で唯一の存在である証として、それぞれのピアノにはシリーズ名とシリアルナンバーが入っている。

これは日本滞在時に作ったと思われるレノン自作の落款「如雲玲音(雲の如く、透き通るような音)の文字と共にメダリオンに刻印されており、リミテッド・エディションとしての存在感を際立たせている。譜面台には、ジョン自身がメッセージを込めたイラストが描かれている。世の中には限定品と呼ばれるものは数多くある。また20世紀という時代を彩ったアーティストやクリエイターへのオマージュとして作られた製品も少なくない。しかし、このスタインウェイの「イマジン・シリーズ」ほどの圧倒的な完成度は他に比較できるものがない。まさに限定中の限定。これだけのプロジェクトを創造できるのは、世界に冠たるピアノメーカーだからこそ、ではないだろうか。

ちなみに「イマジン・シリーズ」は、スタインウェイ&サンズ社のニューヨークとハンブルク両工場での限定生産。グランドピアノはM1-170からD1-274までの6モデル。アップライトピアノはK-132モデルのみ。



高音部の鍵盤の上に記されたサイン。ピアノを弾くたびに、敬愛するジョンのサインが見守ってくれることになる。ファンにとってはたまらない魅力。



上のイラストは響板に描かれたジョン自作のイラスト。ピアノの心と呼ばれる響板は、ピアノ自体の豊かな響きが精巧に形作られたこの部品が振動することによって生まれるもの。まるでジョンの魂が共鳴しているかのようだ。

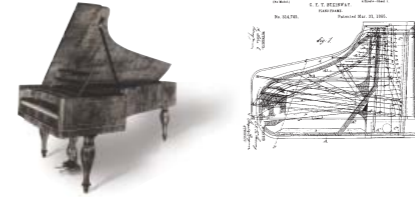


アップライトピアノ(K-132モデル)。価格600万円
譜面台イメージは5点から好きなものを選ぶ(限定数)。

STYLING

MONO

スタインウェイ製品についてのお問い合わせは
 ©スタインウェイ ジャパン
 ☎03-5251-6550
<http://www.steinway.co.jp>



創業者ハインリッヒ・エンゲルハート・スタインヴェグと、彼が最初に作った製造番号No.1「キッチンピアノ」。下は1880年のハンブルク工場。



上:「イマジン・シリーズ」グランドピアノ(6モデル) 価格1150万円~
 下:「D-274」モデル(黒色艶出塗装仕上) 価格2026万5000円



「アクアマリン」
 厳選された美しい銘木で作られるクラウンジュエル・シリーズ。最高級のアイス・バーチ材を使用した逸品。価格(アップライト)556万5000円~



こちらもクラウンジュエル・シリーズ「トバース」
 最高級のボメラ・マホガニーを採用したエレガントな一台。価格(グランドピアノ)1248万4500円~